

多久 議会だより

2021



令和3年
9月定例会

第50号



特集：出前授業	P2.3
審査報告	P4.5
議案質疑	P6.7
意見書・修正案	P8
一般質問	P9~11
決算特別委員会報告	P12~13
まちで発見!	P14

特集！ オンライン出前授業



多久の歴史 平安時代(西暦806~1190年)

飛鳥・奈良時代が終わり平安時代に入ります。この頃多久において、今も残る寺社が創建されており、多久町東の原の「専稱寺」や、原始的な偶像を神として祭祀する神社として、祭神に大比古命、坂上田村麿と伝説上の鈴鹿御前を祀っている西多久町の「鈴鹿神社」、多久の古文書『丹邱邑誌』に、百合稚が鬼退治の折、太刀を作らせた鍛冶を神に祀ったとある、東多久町仁位所の「鬼神神社」などがあります。

平安時代の中頃からは、中央政府の統率力が弱体化し、治安の維持がくずれ、盗難・放火・殺人・騒乱などの人災や地震・落雷火災・大風・水害・干ばつなどの天災が全国的に続く社会不安と、末法(*1)の入り重なる状況であり、昭和の中頃までの長い間、空白であった平安時代末期の多久市についての重要な資料といえるものが発掘されているので紹介します。

山崎経塚と経筒

多久町山崎山南傾斜面で昭和32年、みかん園開拓中に発見された経塚から、銅製経筒・陶製外筒(須恵器甕)・台石のほか、経筒蓋に垂らすガラス玉(桜珞)85個や草花双雀鏡が出土した。筒身に「天治元年(1124年)十月一日橘國未并染嶋氏」の毛彫銘があり、これは末法思想最盛期の埋納であることと経塚の構造が明らかでない数少ない経筒として昭和34年、佐賀県重要文化財に指定されました。



山崎経筒▶

【佐賀県重要文化財 山崎経塚出土 佐賀県立博物館所蔵】

中小路増富遺跡

昭和59年、南多久町中小路で発掘調査された遺跡です。検出された遺構は12世紀後半の掘立柱建物跡・柱穴を持つ不定形大型土壌・円形土壌・土壌墓・溝状遺構や、遺物として土師器・瓦器・須恵器・輸入青白磁・ふいごの羽口・滑石製模造品などが出土しました。このことから土師器や鉄製品の製作が行われ、その工人が存在したこと、工人を管理する人物がおり輸入陶磁器や東播磨産の須恵器を入手できる立場であることがわかることから、増富遺跡は先進地域であり、公的施設であったと考えられます。



▲ふいごの羽口

▲滑石製模造品

【中小路増富遺跡出土・多久市教育委員会所蔵】

(*1)末法思想

仏教における歴史観の一つ。釈迦の入滅後、初めの千年間を正法、次の千年間を像法、そしてその後の一万年を末法といい、末法の世では仏法が衰え、悟りを得ることができなくなり、世の中が混乱するという考え。仏道修行者の危機意識を喚起するために説かれた。

UD/FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境に優しい植物油
インキを使用しています。

「議会報告会」のお知らせ！

多久市議会では、議会基本条例に基づき「議会報告会」を毎年開催しておりますが、今年も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各町公民館での報告会は行わず **多久ケーブルメディア** の放送と **YouTube** で報告を行います。

● 多久ケーブルメディアの放送日時

1月6日(木)～8日(土) 10:00/14:00/17:00/20:00/26:00

1月9日(日) 14:00/20:00

● YouTube 1月中旬公開予定



◀令和2年度
第10回 議会報告会
YouTube

